

発行 佐久市有機農業研究協議会(発行責任者:伊澤 敏)

【構成】佐久市・JA佐久浅間・佐久総合病院・佐久市農業委員会臼田地区委員会

〈事務局〉長野県佐久市臼田787 (一財)農村保健研修センター内 TEL 0267-82-5800 FAX 0267-82-5801 URL <http://nouson-rhtc.jp/>

活動の紹介は 佐久市有機農業

検索



伊澤会長が語る 有機農業

下郷診療所で学んだ有機農業

30年ほど前になりますが、平成元年4月から翌年3月まで大分県耶馬溪の下郷診療所に勤務した時のことです。下郷診療所は下郷農協が単独で経営に乗り出した無床診療所です。下郷農協の組合員農家では昭和30年代から有機・無農薬農業に取り組んでいました。全国に先駆けて「産直」を始めた農協としても知られ、生産した農畜産物を福岡市や北九州市の消費者に直接届けて販売していました。

お世話になった診療所の事務長さんは「先生ね、有機・無農薬なんて簡単に仰いますけど、そんなに甘いもんじゃないんですよ。作物によってはね、収穫ゼロなんて年もあるんですよ」と教えてくれたことを思い出します。有機・無農薬栽培に取り組んでいる農家では、朝暗いうちに畑に出て、葉っぱを食べているヨトウムシを箸でとったりしていました。「本当の意味での『美味しく豊かな食』を消費者の皆さんに届けたい」という姿勢があったからです。これは今も変わりません。

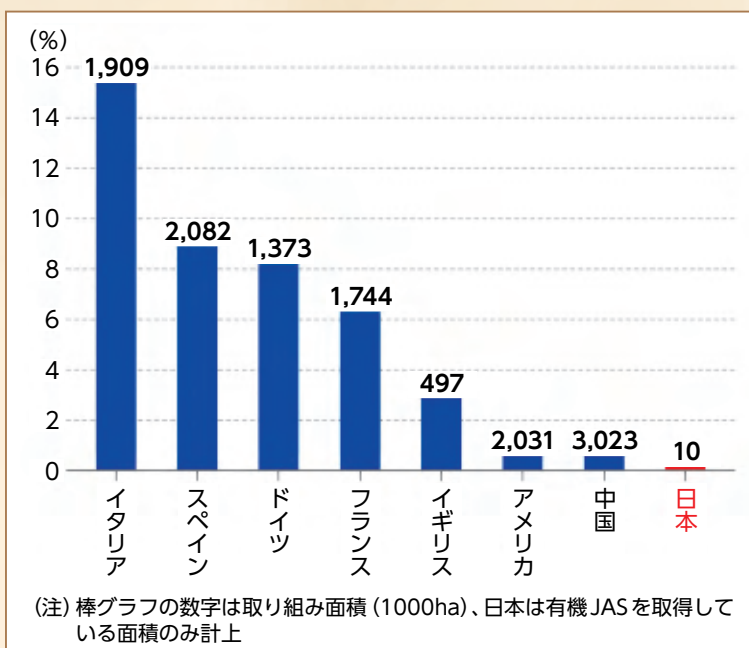


佐久市有機農業研究協議会
会長 伊澤 敏

これからの有機農業

しかしながら、全国的にみると日本の有機農業はまだまだです。グラフは耕地面積に対する有機農業取り組み面積の割合ですが、ヨーロッパなどに比べて日本の少なさが際立っています。今年5月農林水産省は「みどりの食料システム戦略」を策定。日本でも有機農業を推進する方向に舵をきりました。手間のかかる有機農業ですが、広がっていかないといけません。これは時代の要請でもあります。私たちの子どもや孫たちが生きていける環境を残すためにも、これは大事な方向になるはずです。

耕地面積に対する
有機農業取り組み面積と面積割合(2017年)



東洋経済 ONLINE 2020年2月8日記事より参照

2022年度**有機栽培農園利用者募集**はじめての方でも
大丈夫!

毎年、利用者からは
「自分で育てた野菜を食べることができるのは楽しい」
という声が聞かれています



- 場 所** 当協議会 実験農場内 ((一財)農村保健研修センター西側)
- 募集区画** 16区画(1区画約35㎡) ※原則1戸1区画
- 使用料** 1区画 年間3,000円(税込) ※使用料納入後に途中解約した場合は、使用料の返金はありません。
- 使用期間** 2022年4月2日(土)から11月末日
- 申込期間** 3月7日(月)から17日(木)の平日 9時から17時まで
(一財)農村保健研修センター窓口にて利用上の規則を確認し、申込用紙に必要事項を記入してお申込み下さい。結果は後日お知らせいたします。
※新規申込者を優先し、応募多数の場合は抽選により決定いたします。
- 開園式** 4月2日(土)午前10時 実験農場管理棟にて(区画割抽選、利用上の説明、農園の栽培指導など)

問い合わせ (一財)農村保健研修センター 電話 0267-82-5800

WEB講演会を開催しました**テーマ**

有機栽培による家庭菜園のポイント
栽培の組み合わせと有機物の施し方



11月24日に(公財)自然農法国際研究開発センターの榎原健太郎先生による講演会を開催いたしました。今回はオンラインでの開催となりましたが、多くの質問にも丁寧にお答えいただき活発な時間となりました。



講師の
榎原健太郎先生

感想

収穫した野菜の残渣のすきこみ方や、季節の生物が蒔き時を教えること、野菜の根をいかに気持ちよく伸ばす条件を整えるかなど家庭菜園の基本的で重要なことをわかりやすく楽しく教えていただきました。

佐久大学生の地域生活者交流実習に協力しました

9月19日、「佐久ぴんころウォーク」を通して地域住民の健康を考える地域学習として、佐久大学看護学部学生10名が実験農場を訪れました。2019年に当協議会では中継地点として芋の煮っころがしなどの提供をした経緯があります。

今回は、事務局の(一財)農村保健研修センター施設長と農場長が活動内容を紹介しました。

新型コロナウイルス感染症が収まり再開した際には、佐久大学の皆さんと「農業と健康な食文化を考える」場面が作れればと考えています。

